

2023年度
学校評価報告書



学校法人 徳永学院 西吹田幼稚園
NISHISUITA KINDERGARTEN

自己点検結果報告

1. 本年度の重点的な目標、総合的な評価結果及び今後の課題

■2023年の大きな出来事

- ・総合的に判断し、学年を越えて理解、対応する事ができた。
目標に向けて、今年度強化を課題としていた「おもいやり、やさしさ」「信頼関係」また、異年齢間交流についても重点的に図ることができ目標は達成できた。
- ・行事や教育に、子どもたち同士で意見を出し、協力しながらさらに充実させる事ができた。

2. 評価項目課題と結果

I 教育理念

課題：園の教育方針について全教職員が同じ意識を持って取り組む。

学年の中で話し合いを深め全学年で理解し対応していった。

①教育方針

- ・園の教育方針を、相互理解できるよう努めている。

II 教育の計画性

課題：教育課程や細かな指導計画を、各学年で明確にできるようにする。

①教育課程

- ・園の教育課程を理解している。
- ・教育課程をもとに指導計画を立て、各学年で明記している。また、各学年の指導計画を全員で共有している。

②指導計画

- ・指導計画は教育要領・教育課程・幼児の実態などをもとに考えて作成している。
- ・指導計画は常に見直しを行っている。
- ・従来からの伝統と現在の教育のあり方の良い所を検討し見直ししている。

III 教育の実態

課題：本園の特色ある教育に新幼稚園教育要領を取り入れるようにする。

教諭間の連携を深めるとともにクラス、学年の枠を超えて園全体で一人ひとりのこどもを理解しようと努め、援助できるようにする。豊かな友だち関係で遊びが広がるように計画していくとともに、それに必要な環境を研究する。

日々の様子を記録し成長の姿を明確に出来るようにする。人間性の基礎となる意欲を育めるようにする。

また、異年齢での交流をしていく事で豊かな人間関係を築き、様々な経験をする。

①10の項目について

- ・教育の中で意識的に幼児期の終わりまでに育てほしい10の姿の項目が取り入れられるようにする。

②こどもたちのかかわりについて

- ・保育者自身が豊かな人間性をもち、子どもたちの目線と同じ目線での驚き、喜び、関心、表現を感じ子どもたちと共有することで信頼関係を深めていこうとしている。
- ・個々の子どもたちの心身の状況・変化・発達・性格をよく把握できるように努め、その子に応じた支援とことばかけができるようにしている。
- ・子どもたちの思いに共感し、関わりをもっている。
- ・子どもの人権を尊重し、教育にあたっている。
- ・一人ひとりの話に耳を傾け、子どもの気持ちを受けとめ安心感、信頼感を築く。そのことによって個々がのびのびと自分をすなおにだし明るく生活できるようにしている。
- ・保育者が表情豊かに接する事で、思いを表現しやすい環境をつくる。

③環境づくりについて

- ・友だち同士のつながりが深まり、新たな友だち関係にもつながるようなグループ活動、学年を超えた取り組みを環境として取り入れていくようにしている。
- ・子どもたちが見通しをもち安心して生活が送れるように視覚的支援を含め配慮していくようにする。
- ・遊具、教材についても個々が集中して遊べるものを研究していくとともにその環境を用意していくようにする。
また、その遊びに集中することから集団の中での集中力にもつなげていけるようにする。
- ・遊びが単発的におわるものばかりでなく、継続して遊べるものも取り入れ楽しめるようにする。
- ・その時々々の季節や子どもたちが興味をもっている事柄、目を向けてほしい内容などに自然に目を向けられるよう効果的に図鑑や絵本、教材などを用意し、見ることができるようになる。
- ・子どもたちが集中して活動に取り組める環境づくりに努めている。

自己点検結果報告

④教諭間の連携について

- ・全学年の週案を全教職員が理解できるようにしている。
- ・視覚的に情報共有できるよう、掲示するようにした。
- ・他のクラスの運営状況、教育方法も教諭同士で把握できるようにし目を配ることでクラスの運営にかたよりのないような話し合い、見守り、援助をしている。
- ・子どもについて常に教諭同士で話し合い、クラス、学年をこえて情報を共有している。また意見交換を細やかにしている。
- ・子どもの様子、クラス運営を細やかに記録し、年間を通じての成長を明確にできるようにしている。またそれを共有している。
- ・他学年の活動についても意見交換できるようにし、よりよい教育が行えるようにしている。
- ・子どものささいな様子の变化や出来事も教諭間で共有しあうようにしている。
- ・アプリを導入する事で園児の出欠や体調を管理できるようになった。

IV 学級運営

課題：毎日の教室管理や事務処理を能率よく行う工夫をする。

①教室の管理

- ・教室内の整理整頓を心がけ、掃除が行き届いている。
- ・子どもの動線を考え、安全に配慮した環境になっている。

②事務処理

- ・出席簿・教育日誌は毎日正確に記入している。
- ・配布物は適時に配布している。
- ・連絡帳はすぐに読み、適切に対応している。
- ・保護者からの提出物、現金など注意深く管理している。

V 教育能力向上

課題：研修会により多く参加するなど、教諭としての研究心を常に持つ

①研修・研究への意欲

- ・研修会には進んで参加している。
- ・研修会などで習得したことを実際の教育に生かしている。
- ・教育関連の専門書や専門雑誌を読んでいる。

- ・他園へ見学に行き、学んでいる。必要な事は取り入れられる事があるか教職員で研究を重ねている。
- ・教材研究をしている。
- ・研修で得た事を共有し、園内研修に取り組んでいる。

VI 保護者とのコミュニケーション

課題：家庭との連携の重要性をより一層意識し、子どもの成長を共に見守るという気持ちを持って保護者と接する。

①情報の発信と受信

- ・子どもの変化や出来事、日常の様子をできる限り保護者に伝えている。
- ・保護者からの依頼や、質問、相談などには適切に対応している。
- ・家庭との連携が不可欠であることを認識し、保護者と情報交換をしている。

②協力と支援

- ・保護者からの訴え、要望については安易に受けたり断ったりしないで上司に報告相談し、慎重に対応している。
- ・保護者への支援が可能な部分については上司・他の教職員の合意のもとで行っている。
- ・保護者の協力が必要な場合は上司と協力のあり方を協議の上で保護者に依頼している。
- ・保護者への支援が必要な部分については大阪府、吹田市の関係部門と連携して事にあたっている。

③良識とモラル

- ・個々の子どもや保護者、家族の情報は一切口外していない。
- ・保護者との接し方は平等になるよう心がけている。
- ・保護者を尊重して話している。
- ・保護者を尊重して話を丁寧に聞いている。
- ・園のすべての保護者に対し、あいさつをしている。

④要望への対処

- ・要望に対して謙虚に話を聞いて問題の本質を捉えるようにしている。
- ・保護者の意を理解し、その上で保護者の納得を得ることができる対処を心掛けている。
- ・必ず上司に相談・報告をしている。
- ・保護者の要望によっては、園長が直接対応している。

VII 期待される望ましい教育者像 課題：子どもたちの成長を助長する教育ができるように更に学びを深めていくようにする。

①幼稚園教諭としての能力

- ・相手を思いやり気づけるよう努めている。
- ・子どもとのかかわり方や言葉がけなど、日々自分自身を振り返りどうあるべきか常に見つめ直している。
- ・幼稚園教諭としての専門知識や技能を身につけようと努めている。
- ・子どもの性格や個性を把握するよう努め、その子に応じたコミュニケーションがとれる。
- ・仕事の手順をよく考え、仕事の優先順位を見極め能率よく行っている。
- ・リーダーシップを発揮し、魅力あるクラスづくりができるよう励んでいる。
- ・クラス全体の動きを常に把握している。

②良識とマナー、モラル

- ・教育時間外でも教育者としての誇りと自覚を持った言動を心がけている。
- ・その場に適した言動をとることができる。
- ・服装・髪型・身だしなみなど、清潔感のあるものを心がけている。

③職務の遂行

- ・重要書類や個人情報にかかわる資料等は確実に保管し、園外に持ち出さない。
- ・教材・教具の管理、点検に気を配っている。

④組織の一員としてのあり方

- ・教職員全員でひとつのチームであることを意識している。
- ・自分の意見と異なる結果になっても決定したことは快く協力、実行している。
- ・同僚とは同学年の横のつながり、異年齢の縦のつながりを意識して互いを尊重し協力している。

3. 学校関係者の評価

- ・全員で、学校評価を理解し、反省し、自己点検、自己評価に取り組んでいる。また安心、安全に過ごせるよう防災マニュアルを作成し、学期ごとに、訓練に取り組んでいる。またアレルギー対策マニュアルの作成を含め、定期的に保健だよりを配布など、個々の健康にも留意している。
- ・4で述べる様に詳細にわたりよく点検している、また時代の要請に応える努力もしている。
- ・教職員の働く体制を整え、健全に園児に保育できるようにしている。
- ・以上特に指摘すべき事項はなく、妥当であると認められる。
- ・年休・有休をとりやすい環境づくりをしている。

自己点検結果報告

4. 結果詳細 (別添え)

I 園の教育方針

「すなおで あかるい げんきなこ」を園訓とし、たくましい人間育成を目標としている

II 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画をもとに設定をした学校評価の具体的な目標や計画

教育目標をふまえ、自己評価、自己点検を日々行うことによって互いの状況を理解し、より良い教育の改善に主体的に取り組むことを重点とする

III 評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	取組状況	評価
教育課程や指導計画の見直しをしつつ、全教諭が理解できるように努力する。	<ul style="list-style-type: none"> 毎月、各学年で、子どもたちの状況に応じた目標を定め、達成できるよう状況を報告し合うようにしている。保護者にも達成できているか伝えるようにした。 全学年助けあって取り組むように努めた。 	○
本園の特色ある教育を活かせるよう工夫する。	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたち、それぞれの状況を把握し、個人に応じた対応に努め、全教員が共有している。 日々、教諭間で話し合い、情報を共有し、よりその子その子に適するよう考慮している。 その都度反省し、次の教育を活かせるよう工夫する。 	○
研修会に参加するなど、研究心を常に持つ。	<ul style="list-style-type: none"> 研修会 (大阪府・吹田市主催の講座、体育・運動の講習会、描画・製作の講習会等)などで習得した事を、実際の教育に活かす。また園内研修を行い習得したことを共有する。 多分野の教育誌を、読み研究する。 	△
保護者とのコミュニケーションを図る。	<ul style="list-style-type: none"> 登降園時で日々の変化、様子を話し合うことができる。子育て相談もその都度受けている。 日々ホームページの保育日記、連絡帳、年7回のクラス通信にて、様子を伝え合う機会をたくさん設けている。 各学期に連絡帳で、その子の様子を細かく知らせ、大きな行事においても、過程や個人としての活動も伝えるようにしている。 コミュナビアプリ導入することで、全教員が園児の体調を知る事ができた。連絡ナビによって細やかに連絡する事ができた。 	○
より望ましい教育者としての自覚や人間性を高める努力をする。	<ul style="list-style-type: none"> 教職員全員で、協力し合い、より良いクラス運営ができるように、内部研修会を通じ、お互いを高め合っている。 	○

IV 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

全員で、学校評価を理解、反省し、自己点検、自己評価に取り組んでいる。また、安心、安全に遊べるよう危機管理マニュアルを作成し、学期ごとに、訓練に取り組んでいる。アレルギーマニュアル作成を含め、健康に留意している。

V 今後取り組むべき課題

評価項目	取組状況
情報公開の方法	<ul style="list-style-type: none"> ICも利用し園の情報や子どもたちの育ちを理解できるよう取り組んでいく。 詳細を保護者に伝えられるようにする。・Instagramを通じ本園の情報を伝えられるようにする
安全管理	<ul style="list-style-type: none"> 防災マニュアルを周知、理解し、迅速に対応できるよう訓練の機会を増やし取り組む。 ICカードを採用する事で更に防犯対策をしていく。 避難訓練の回数を増やし、子どもたちが実際に体験したり話を聞いたりすることを通じ、危機管理意識をしっかりと持てるようにする。 自動車登園をコミュナビも使用し安全に登園できるようにする。 登降園時、門の管理をして安全に努めているが、引き続き徹底する。
指導計画	<ul style="list-style-type: none"> より充実できるよう見直し、向上できるように努める。 個々の園児に対して働きかけ、より成長できるように促す。・日々の様子を記録する。 内部研修の機会を増やす。・週案を提出し、全員で共有する。 異年齢の触れ合う機会が少なくなっていたので、どのように異年齢間交流を行うかの具体策・計画を作成する。 各学年の指導計画を記録として残すように、全員が理解できるようにする。 目標が達成できたか検討する事で、次の目標を見極めるようにする。 教職員一同学び続け、新しい知識を得て行くようにしていく。

保護者・地域から見た園に対する評価

- ◎ 永年の歴史と伝統を大切にしながらも、保護者や地域の意見に耳を傾けよりよい園運営を目指している姿勢が良い。
- ◎ 全ての先生方が、全園児の顔を覚えていてくださり温かく目の行き届いた対応をしてくださる。
- ◎ 通園バスは無いが、その分、登降園時に親子の対話の時間が持て、毎朝担任の先生と顔を合わせ子どもの体調等、細かな事でのコミュニケーションがとれる。
- ◎ のびのびとした園の雰囲気の中で子ども達は生き生きとした表情で元気に活動できる。
- ◎ 未就園児も含めた異年齢間交流を図っている姿勢がよい。
- ◎ 園児増に対する取り組みをさらに進めることを望む。
- ◎ 卒園生と幼稚園の絆がいつまでも強く、夏まつり・バザー・運動会などに参加する等、地域に根ざしているのが良い。
- ◎ 園舎が非常に幼稚園らしく可愛く、園児・保護者が喜んでいる。
- ◎ 保護者・地域への情報公開に積極的に取り組んでいるのが良い。
例えば、ホームページの教育日記が毎日更新され、教育中の事がよくわかり、毎日楽しみに見ている保護者が多数いる等。
- ◎ 徒歩・自転車通園・園遊会等、保護者同士触れ合う機会が多く有り友達ができ易く、お父さん・お母さんの仲が良い。また、先生と保護者の距離が近く、アットホームな雰囲気が良い。
- ◎ 自発的に園児が字や、数字を学ぶ気持ちにさせ、教えてくれるのが喜ばしい。
- ◎ 絶えず、地域と共に子どもを育てようという姿勢が良い。
- ◎ 課外教室にも力をいれており、絵画教室ではこども二科展に出展し、毎年入選したり英語教室では、外国人講師によるネイティブな英語をゲームなどを通して教えているのが良い。
- ◎ 運動教室ではサッカーを取り入れ、プロのサッカー選手に教えて頂けるのが良い。
- ◎ キンダーカウンセリングを安心して受けられる環境が整っている。
- ◎ 夏休み中も預かり保育があり、助かる。
- ◎ 先生達の園児ひとりひとりに対するスキンシップの触れ合いに子ども達も喜んでいる。
親としてもうれしい。
- ◎ 現金徴収ではなく、キャッシュレスにしてほしいという思いがあったので、それを口座引落システムにして頂き助かります。
- ◎ 母の会が休会になっているので役員がまわってくる不安がなくなり良かった。
- ◎ 園長先生も園児の名前を覚えており、登降園時に声をかけてくれる。
- ◎ アットホームで少人数だからこそ、他のクラスの子の名前を覚えている。
- ◎ 預り19時までであり、助かる。

2023年度 事業報告書



学校法人 徳永学院 西吹田幼稚園
NISHISUITA KINDERGARTEN



法人の概要

1. 名 称 学校法人 徳永学院 (昭和29年6月3日法人設立)
2. 住 所 等 大阪府吹田市泉町4-41-10
電話/FAX 06-6384-4748
3. 設置する学校 学校の名称:西吹田幼稚園
所在地:法人に同じ
定 員:210名
実 員:103名 (2023年5月1日現在)
4. 理 事 長 徳永 倭
理事6名、監事2名、評議員13名
定例理事会・評議員会 年2回開催
5. 施設 の 状 況 園地面積 1,486㎡
園舎面積 1,082㎡
運動場面積 833㎡
6. 教職員 の 状 況 2023年 5月1日現在 西吹田幼稚園
園長=1人、主幹教諭=1人、
主任兼学級担任=1人
主任兼教務企画担当=1人、
学級担任=6人
副担任=1人
預り担当=2人 (12月以降 4人)

事業の概要

■保育の状況 2023年（令和5年）5月1日現在

開園時間	8：00～19：00
保育時間	月・火・木・金 9：00～14：30
	水 9：00～12：30
預かり保育	平日開園日全日 年間203日
	夏季・冬季・春季 休業日の内 35日 合計年間235日
休園日	土・日・祝・創立記念日
	夏季 7/25～8/31 冬期 12/25～1/7 春季 3/6～4/8
昼食	給食/週5回 手作り弁当/月2回
通園方法	徒歩/自転車/車（早朝のみ） 個人送迎
子育て支援	教育相談・園庭開放（年16回+随時） プレスクール（来春入園者） キンダーカウンセリング（月1回）

■学級・園児・教職員の構成 2023年（令和5年5月1日現在）

認可定員（クラス数）	定員	210名（8クラス）
実員（クラス数）	3歳児	
	4歳児	
	5歳児	
		合計103名（7クラス）

教職員	園長 = 1名	
	主幹教諭 = 1名	
	主任兼教務企画 = 1名	
	主任兼学級担任 = 1名	
	学級担任 = 6名	
	副担任 = 1名	
	預かり担任 = 2名	
	預り補助 = 2名	
	英語講師 = 3名	
	運動講師 = 1名	
	臨床心理士 = 1名	
	職員 = 4名	
	合計	24名

事業の概要

■2023年（令和5年度）事業概要の説明

[5年度総括]

5年度は園児数103名 前年比△23名にてスタートした。園児数の減少は平成31年の167名をピークとして、以降4年続けての減少となった。これは 5年度新入園児募集（4年9月に実施）時にはっきりと出ており、園としての対策の必要性が求められた。この認識の下に、5年度は、西吹田幼稚園独自の特徴ある幼児教育のあり方を模索し実現するための園の体質改善を含め改革を進めてきた。

その方向性と具体的取組を 5年9月の新入園児募集にて、入園希望者のみならず、在園児保護者にも詳しく発表し、園としての新たな方向と取組決意を披歴し、評価をいただき結果として 6年度の新入園児は53名 前年比250%の大幅増となった。

6年4月にスタートする 新プログラムの準備（設備・カリキュラム・体制整備等）に進進し、併せ新プログラムを実行しうる園の運営改善を進め、6年4月に稼働した所である。しかし初めての取組であり、実行していく中で改善すべき事項も多々でてくる事も予測されトライ&エラー&改善を繰り返して 西吹田幼稚園の独自性あふれる幼児教育の実現へ園をあげて 取り組んで行く。

[5年度の主な取り組み事項]

1. 新教育プログラムの開発と準備
アカデミック・インクルージョン・インターナショナル クラス
2. わくわくくらぶ（預かり保育）の一層の充実
預かり実績 延べ8756人日 前年比106%
3. 教師のその他業務の改善による 教育への集中化
こみゅなび導入により 保護者との連携強化 園児状況管理の省力化
諸費用清算業務の自動化
4. 教職員勤務の改善
就業規則の改定・・・年休 勤務時間 残業 賃金規定の見直し
5. 園児接触者の実質的増員
兼務教職員 講師 補助員の運用

事業の概要

■ 2023年（令和5年度）事業概要の説明

[5年度総括]

5年度は園児数103名、前年比△23名にてスタートした。園児数の減少は平成31年の167名をピークとして、以降4年続けての減少となった。これは5年度新入園児募集（4年9月に実施）時にはっきりと出ており、園としての対策の必要性が求められた。この認識の下に、5年度は、西吹田幼稚園独自の特徴ある幼児教育のあり方を模索し実現するための園の体質改善を含め改革を進めてきた。

その方向性と具体的取組を5年9月の新入園児募集にて、入園希望者のみならず、在園児保護者にも詳しく発表し、園としての新たな方向と取組決意を披歴し、評価をいただき結果として6年度の新入園児は53名、前年比250%の大幅増となった。

6年4月にスタートする新プログラムの準備（設備・カリキュラム・体制整備等）に進出し、併せ新プログラムを実行しうる園の運営改善を進め、6年4月に稼働した所である。しかし初めての取組であり、実行していく中で改善すべき事項も多々でてくる事も予測されトライ&エラー&改善を繰り返して西吹田幼稚園の独自性あふれる幼児教育の実現へ園をあげて取り組んで行く。

[5年度の主な取り組み事項]

1. 新教育プログラムの開発と準備
アカデミック・インクルージョン・インターナショナル クラス
2. わくわくらぶ（預かり保育）の一層の充実
預かり実績 延べ8756人日 前年比106%
3. 教師のその他業務の改善による 教育への集中化
こみゅなび導入により 保護者との連携強化 園児状況管理の省力化
諸費用清算業務の自動化
4. 教職員勤務の改善
就業規則の改定・・・年休 勤務時間 残業 賃金規定の見直し
5. 園児接触者の実質的増員
兼務教職員 講師 補助員の運用

財務状況

【資金収支計算書】

単位：円

科 目	令和5年度
学生生徒等納付金収入	39,101,560
手数料収入	189,000
寄付金収入	1,234,000
補助金収入	47,884,000
付随活動収入	18,422,045
雑収入	636,894
借入金等収入	94,504,000
前受金収入	4,130,000
その他の収入	18,830,846
資金収入調整勘定	-7,020,916
前年度繰越支払資金	2,623,864
収入の部合計	220,535,293
人件費支出	65,133,420
教育研究費支出	22,944,431
管理経費支出	23,203,226
借入金利息支出	882,642
借入金等返済支出	25,881,167
施設関係支出	10,800,000
設備関係支出	3,747,000
その他の支出	20,673,828
資金支出調整勘定	-12,435,515
次年度繰越支払資金	59,705,094
支出の部合計	220,535,293

【事業収支計算書】

単位：円

科 目	令和5年度
学生生徒等納付金収入	39,101,560
手数料収入	189,000
寄付金収入	1,234,000
補助金収入	47,884,000
付随活動収入	18,422,045
雑収入	636,894
教育活動収入計	107,467,499
人件費支出	65,133,420
教育研究費支出	28,118,569
管理経費支出	13,093,789
付随活動支出	11,454,882
教育活動支出計	117,800,660
教育活動収支差	-10,333,161

教育活動外収入	41
教育活動外支出	882,642
教育活動外収支差	-882,601

基本金組入前当年度収支差額	-11,306,505
基本金組入額合計	-14,456,257
当年度収支差額	-25,762,762
前年度繰越収支差額	-226,315,980
翌年度繰越収支差額	-252,078,742

【貸借対照表】

単位：千円

科 目	令和3年度
固定資産	145,512,857
流動資産	65,206,010
資産の部合計	210,718,867
固定負債	150,093,778
流動負債	31,743,076
負債の部合計	181,836,854
基本金	280,960,755
繰越収支差額	-252,078,742
純資産の部合計	28,882,013
負債及び純資産の部合計	210,718,867

【財産目録】

単位：千円

科 目	令和3年度
固定資産	145,512,857
流動資産	65,206,010
資産総額	210,718,867
固定負債	150,093,778
流動負債	31,743,076
負債総額	181,836,854
正味財産	28,882,013

財務状況

■ 財務状況の説明

令和5年度は、園児数が5月1日現在で前年の125名からさらに22名減少し、103名となった。

これにより 授業料収入は 32074千円と前年比82% 又経常費補助金は 31813千円と前年比84%と減少した。いわば園児数の減少に伴う収入減が、前年に比べ 15267千円の減収 前年比82%となった。一方で 預かり保育事業の充実で 1952千円の増収を見たが、全体をカバーするにはいたらなかった。

一方支出においては、教職員の処遇改善もあり、前年比102.7%となった。

又 5年度の課題として管理費の削減にとりくみ、費目の見直し、思い切った効率化にとりくみ 前年比67%と一応の成果を見た。

この園児数の減少傾向を当園の経営上の最大課題として、6年度に向け新たな取り組みをスタートさせ、そのための資金を手当てすべく、おおきな借入を実行した。

新たな教育プログラムを開発し 6年度より インクルージョンクラスとインターナショナルクラスをスタートさせる事ができた。

預かり保育の充実と 新プログラムのスタートにより 6年度新入園児は53名と増加し

6年度は園児数が119名と前年に比べ 16名の増加をみている。

新クラスは 授業料等も別建てにて計画しており、財務的にも貢献できると確信している。

監査報告書

監 査 報 告 書

学校法人 徳永学院

理事長 徳 永 倭 殿


令和6年5月25日、市立学校法第37条（第4項）及び、寄付行為第13条の規定に基づいて、令和5年度決算にかかる事業報告、決算報告及び関係諸帳票、証拠書類並びに理事の業務執行の状況について監査したところ、その事業の執行及び財務証票の適正であることを認めます。

令和6年5月25日

学校法人 徳永学院

監事 浦田昇一 

浦田昇一

監事 松本浩幸 

松本浩幸

監事の職務執行状況

令和6年5月25日

前年度決算… 適当

公認会計士の監査状況

監査実施年月日 令和6年5月15日・6月9日・6月19日

監査報告参考事項…なし

公認会計士 谷木 稔弘
